

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan

TEL 03-3714-0552 FAX 03-3714-2571 E-mail info@artphoto-site.com

報道各位

2018年3月吉日

ROCK ICONS 2 SUKITA X HARARI X FRIENDS

鋤田 正義 / グイード・ハラリ / フレンズ

2019年4月12日（金）～7月14日（日）

1:00 PM～6:00 PM/休廊 月・火曜日/入場無料

ブリツツ・ギャラリー

〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-20-29 TEL 03-3714-0552

JR目黒駅からバス、目黒消防署下車徒歩3分 / 東急東横線学芸大学下車徒歩15分

ブリツツ・ギャラリーは、昨年に開催して好評だった、鋤田正義とグイード・ハラリによる20世紀ロックの伝説的ミュージシャンたちのポートレート写真展の第2弾、“ROCK ICONS 2 (ロック・アイコンズ 2) / SUKITA X HARARI X FRIENDS”を開催します。

日本人の鋤田とイタリア人のハラリは、70年代から20世紀ロック黄金期のミュージシャンを世界中で撮影し続けてきました。二人は、撮影スタイルは違うものの、お互いの仕事をリスペクトしあう友人でもあります。ハラリは、熱心なロックファンが多い日本での自作紹介を夢見ていました。昨年の“ROCK ICONS / SUKITA X HARARI”展は、ハラリの長年の希望に鋤田が答えることで実現しました。“ROCK ICONS 2”では、二人の日本での未発売作品を中心に紹介。またハラリが自身のギャラリーでプロデュースしている写真家、フランク・ステファンコ、メリ・シル、ロバート・ウィテカー、アート・ケイン、カルロ・マサリーニの作品も紹介します。いずれも日本初公開の有名ミュージシャンの珠玉のポートレート作品です。展示される多くの作品は、ミュージシャンとの深い信頼関係の中から生まれたコラボレーション作品。それらは単なるスナップではなく、コレクションの対象になっているアート系ポートレート写真です。

本展で紹介されるミュージシャンは、鋤田が、デヴィッド・ボウイ、マーク・ボラン、イギー・ポップなど、ハラリが、ピーター・ガブリエル、ルー・リード、パティー・スミス、ケイト・ブッシュなど。フランク・ステファンコはブルース・スプリングスティーン、メリ・シルはジェフ・バックリィ、ロバート・ウィテカーは、ザ・ビートルズ、アート・ケインはボブ・ディラン、カルロ・マサリーニはフレディー・マーキュリーなどです。

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan
TEL 03-3714-0552 FAX 03-3714-2571 E-mail info@artphoto-site.com

本展では、モノクロ・カラーによる様々なサイズの約45点を展示する予定。なお、会期中に一部作品の架け替えを行う予定です。

ぜひご高覧いただくとともに、貴媒体においてのご紹介をよろしくお願ひいたします。

写真家プロフィール

鋤田正義 (Masayoshi Sukita)

1938年福岡県生まれ。1970年からフリーとして活躍しています。特にデヴィッド・ボウイと深い親交があり、彼を約40年以上にわたり撮り続けました。

70年代のはじめ、鋤田は気鋭の若者文化や音楽に惹かれニューヨークやロンドンに撮影に出かけます。1972年の夏にT・レックスのマーク・ボランやボウイを撮影。1977年にはボウイのアルバム"ヒーローズ"のカバーを撮影、同作を鋤田は自身のベスト作品だと考えています。それ以降も、ドキュメンタリーからファッショニ、広告、映画、音楽まで幅広く活動。"氣 デヴィッド・ボウイ"、"David Bowie × Masayoshi Sukita Speed of Life"、"T.Rex 1972"、"YELLOW MAGIC ORCHESTRA × SUKITA"、"SOUL 忌野清志郎"他、多数の写真集を発表しています。

鋤田のボウイのイメージは、ヴィクトリア&アルバート美術館の訪問者数記録を塗り替えた"DAVID BOWIE is"展でも特集されています。(17年1月に東京にも巡回) 2018年春、鋤田正義写真展「ただいま。」を直方谷尾美術館で開催。同年、鋤田の軌跡をたどる初のドキュメンタリー映画"SUKITA"（刻まれたアーティストたちの一瞬）も公開されました。2019年3月、"鋤田正義写真展 in 大分2019"展覧会が開催されます。

グイード・ハラリ (Guido Harari)

グイード・ハラリはイタリア人写真家。70年代初めにキャリアを開始し、ミュージック、ジャーナリズムを中心に、ルポルタージュ、ファッショニ、広告など幅広い分野で仕事を行つてきました。特にミュージック分野では、ケイト・ブッシュ、デヴィッド・クロスビー、ボブ・ディラン、B.B.キング、ポール・マッカートニー、マイケル・ナイマン、ルー・リード、シンプル・マインズ、フランク・ザッパなどの数多くのレコード・カバーをプロデュース。イタリアでは、リッカルド・ムーティとミラノ・スカラ座管弦楽団、ルチアーノ・パヴァロッティ、PFMなどの主要な音楽スターたちとコラボレーションしています。

彼の作品は多くの美術館で展示されており、2016年にはノルウェイのロックヘイム美術館で回顧展"Wall Of Sound"が開催されました。今までに"Tom Waits" (2012), "Bestemmia. Pier Paolo Pasolini" (2015), "The Kate Inside" (2016)など数多くの写真集を出版。

2011年にはイタリアのアルバで音楽写真専門のギャラリーWall Of Sound Gallery をオープンしました。

Blitz

Art Photo Site Tokyo

6-20-29 Shimomeguro, Meguro-Ku, Tokyo 153-0064 Japan
TEL 03-3714-0552 FAX 03-3714-2571 E-mail info@artphoto-site.com

フランク・ステファンコ (Frank Stefanko)

約50年以上キャリアを持つ米国ニュージャージー在住の写真家です。エドワード・スタイケン、アルフレッド・スティーグリツ、ダイアン・アーバスなどに触発され写真を開始。ブルース・スプリングスティーンの撮影で知られ、“Darkness On The Edge Of Town”、“The River”的アルバムカバー写真が有名です。

メリ・シル (Merri Cyr)

ファッショニモデルから転身した写真家。Pratt Instituteで写真を学び、卒業後は主にミュージシャンやアーティストのポートレートを雑誌やレコード会社向けに撮影。ジェフ・バックリーのアルバム“Grace”的カバー写真が有名です。

ロバート・ウイテカー (Robert Whitaker、1939-2011)

特にザ・ビートルズの写真で知られる英国人写真家。1964年から1966年にかけて、ザ・ビートルズと行動を共にして、ツアー写真やプライベート写真を撮影しています。1966年に行われた日本公演にも同行。また1966年に米国で発売された“Yesterday and Today”的、いわゆる“butcher cover”として知られるカバーイメージを撮影しました。

アート・ケイン (Art Kane、1925-1995)

ニューヨーク市出身のファッショニ、ポートレート、ヌードなどで知られる写真家。50年以上のキャリアの中で、ボブ・ディラン、フランク・ザッパ、ザ・フー、ジム・モリソンなどのイメージ作りに関わっています。58人の伝説的なジャズの巨人たちを撮影した“Harlem, 1958”は、最も知られた作品。

カルロ・マサリーニ (Carlo Massarini)

イタリアでのロック・ミュージックの振興に約40年以上携わってきた、写真家、ジャーナリスト。ボブ・マーリイ、ジョニー・ミッチェル、ジャクソン・ブラウン、トム・ウェイツなどを最初にイタリアに紹介しています。雑誌の編集、ラジオ番組などに関わったのち、主にテレビ業界で活躍中。

以上

・お問い合わせ先 ブリツ・ギャラリー TEL 03-3714-0552

写真展の情報・画像は http://www.artphoto-site.com/inf_press.html でご覧いただけます。
